

報道関係者の皆様

「ひきこもり」を正しく理解し、誤解を生じさせない報道を求めます

去る2019年5月28日に川崎市で発生した事件につきましては、被害に遭われた方々やそのご家族、並びに関係の皆様にご挨拶を申し上げます。犯罪行為は断じて許すことはできませんし、未来あるかけがえのない命を奪うことなどは決してあってはならないことです。

私ども（日本臨床心理士会）は、ひきこもりの心理支援に携わる者として、今回の事件報道において加害者がひきこもり状態にあったことと事件が強く関係していると受け取られる報道が多く見られ、ひきこもりに対する偏見が助長されている現状を心より憂うるものです。

根本匠厚生労働大臣は6月4日の記者会見で、「事実関係が明らかではなく、安易に事件とひきこもりを結びつけるのは慎むべき」であり、「個人の状況に寄り添い、きめ細かく支援しながら、社会とのつながりを回復していくことが重要」と述べています。

近年、「8050問題」とひきこもりの関連が大きな注目を集めています。「8050問題」を抱えたひきこもりの当事者と家族が抱えている困難は決して小さくありません。日々の生活の問題や経済的な問題のみならず、最も深刻な問題は孤立です。報道によって偏見が強まることで、関係者の孤立が深まることに強い懸念を抱きます。ひきこもり支援においては、安心が最も大切です。安心を基盤とした支援により社会とのつながりを回復していくことが必要であり、私どもはこれからもそうした心理支援に努めてまいります。

報道関係者におかれましては、偏見を強めることなく、当事者や家族が安心してつながれる社会づくりに貢献する報道を心がけていただきたいと思います。

2019年6月
一般社団法人日本臨床心理士会